

公認会計士法友会会報

公認会計士法友会

第23号

平成30年1月1日

平成28年度定期総会・研修会を開催 (P.5)



平成29年度公認会計士試験合格祝賀会・会員研修会のお知らせ

(日時) 平成30年1月27日(土)

会員研修会 受付 15:30 講演 16:00

場所: 法政大学 ボアソナード・タワー25階 B会議室

演題: 「2018年度税制改正のポイント」(仮)

講師: 三浦晃裕 氏

(法政大学出身 KPMG税理士法人勤務)

合格祝賀会 受付 17:30 開宴 18:10

法政大学 外濠校舎6階 薩埵(さった)ホール

(会費) 公認会計士 10,000円

試験合格者及び会計士補 5,000円

※当該金額には、平成29年度会費5,000円を含みます。
出欠席のご連絡は、送付しております往復ハガキもしくはメールにてお願いいたします。

目次

会長挨拶	2	寄附講座報告	8
雑感	4	簿記チャンピオン大会報告、ゴルフコンペ等報告	9
平成28年度定期総会報告、会員研修会報告	5	各種参加報告	10
平成28年度公認会計士試験合格者の近況	6	年度会費及び寄付金のご協力をお願い	12
「法政士業の会」便り	7	編集後記	12

同封物: 会報、郵便口座振替用紙

会長挨拶

会長 太田 莊一 (昭和52年卒)



公認会計士法友会の会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。

各位の各方面でのご活躍をお慶び申し上げます。2018年が皆様にとりまして輝かしい年でありますことを祈念いたします。

2015年7月に和食克雄前会長(現顧問)から会長を引継ぎいたしましてから2年半が経過しております。この間、会員の皆様には、多大なるご支援とご賛

同をいただき、誠にありがとうございました。毎年決まったように貴重な浄財をご寄附いただいている会員、また、総会、祝賀会等の行事には必ずご出席いただいている会員各位には、誠に感謝に堪えません。

おかげ様で近年、法政大学の内外において公認会計士法友会のプレゼンスを更に高めることができていることは、ひとえに会員の皆様方のご協力・ご賛同と、河西事務局長をはじめとする役員各位のご尽力の賜物であると深く感謝申し上げます。

さて、私自身、2年前の就任時に、法友会の『会員の相互交流・親睦を深めるとともに、母校の発展と後進の育成に貢献する』という目的に基づき、現在の法友会活動の基礎を確立されました和食前会長及び飯塚前事務局長の基本路線を継承しこれを更に発展、充実・拡大していくと共に、新しい若い世代の会員への橋渡し役になるという「初心表明」をいたしました。振り返ってみますと、役員各位のご協力によりなんと2年間やってこれたものの、まだまだ不十分どころが多々あり、特に、新しい若い世代への継承はこれからと認識しており、このたびの会長再任にあたりまして、引き続きこれを「所信表明」としたいと思います。今後とも、会員の皆様からのご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

2017年7月から12月までの最近の法友会活動についてご報告いたします。

【2017年度定期総会における役員改選について】

2017年7月10日に、公認会計士法友会の定期総会ならびに懇親会を開催いたしました。本年度は2年毎の役員改選期ということでしたが、会長、副会長7名、監事2名、事務局長、幹事7名の役員全員の再任が決議承認されました。

役員各位には再任のご快諾をいただき誠にありがとうございます。なお新年度より、副事務局長として木村純

一会員(平成11年卒)に事務局長補佐の役割をさせていただくことといたしました。

また、新年度より、副会長各位及び幹事各位には担当・担当補佐を決め、矢部豊副会長には「校友会担当」を、飯塚昇副会長には「会員寄附担当」を、石川正敏副会長には「祝賀会・総会担当」を、渥美龍彦副会長には「会報担当」を、山田努副会長には「土業の会担当」を、三浦太副会長には「会員親睦担当」を、越智一成副会長には「研修・若手育成担当」を、それぞれ担当していただくことになりました。各位には各活動の企画運営について、会長・事務局長とともにリーダーシップをとってご活躍いただければと思っております。

更に、大谷はるみ幹事には「研修担当補佐」、森口輝来幹事には「祝賀会・総会担当補佐」、佐竹健二幹事には「会員親睦担当補佐」、嶋方拓郎幹事には「若手育成担当補佐」、鶴藤葉子幹事には「若手育成担当補佐」、伊藤章子幹事には「寄付講座担当補佐」、川村敬史幹事には「寄付講座担当補佐」として、それぞれの担当活動に中心的なメンバーとなっただき、特に若手会員への法友会活動へ参加拡大に注力していただくことといたしました。全員が2期目となりますが、新しい若い力をぜひ発揮していただくことを期待しております。

【「法政土業の会」活動対応について】

2017年11月25日に、昨年度設立されました「法政土業の会」の第1回定期総会・講演会・懇親会が開催されました。(詳細報告については、後掲の記事ご参照。また、法政大学のHPの法政フォトジャーナルをご覧ください。)

今後の活動としては、付属校(法政大学中高、二中高、女子高)の内部進学者に対するガイダンスに若手土業(弁護士、公認会計士、不動産鑑定士等)が経験談を語るイベントに当会員の若手会計士が鋭意参加することが予定されています。

公認会計士法友会としては今後とも法政土業の会の活動に積極的に関わってまいりますので、ぜひご協力ご賛同のほどお願い申し上げます。

【寄附講座の開講について】

『母校の発展と後進の育成』という法友会の目的の活動として、現在一番注力しております経営学部の公開講座としての寄附講座『実践会社実務論』を今年9月から秋学期より再度、開講いたしました。

一昨年までと同様に、実務の第一線で活躍している当会員の公認会計士15名が、毎回、実務のトピックなテーマを熱気こもる授業を学生にわかりやすく講義しています。(詳細については、後掲の記事ご参照。)今回もお忙しい中を、講師をお引き受けいただきました会員各位に

は本当に感謝申し上げます。是非よろしくお願ひいたします。

来年度も引き続き開講が決定しておりますので、会員の皆様にはぜひ聴講に来ていただきたいと思ひます。また、今後はさらに若手の会員に講師をお願ひしたいと思ひますので、是非ともご協力のほどお願ひいたします。

【会員寄付活動の拡充について】

今後、特に注力していきたい活動といたしましては、会員の皆様からのご寄付浄財をいかにして拡充していくかという課題に対する対応です。法友会活動は会員の皆様からの会費・寄付金の浄財により成り立っています。昨今、会員の高齢化とご寄付賛助者数の減少により、当会の財政収入にも少なからず影響が出ております。一方、活動の範囲はますます拡大しており、特に、昨年度より給付実行しております法政大学高度会計人育成センター主催の簿記チャンピオン大会成績優秀者に対する公認会計士試験受験のための「奨学支援金制度」については、今年も継続して対象者に給付を行っております。（詳細は、後掲記事ご参照。）これをさらに充実したものにしていくためには、その原資として会員の皆様方からのご寄付浄財が不可欠であります。今後も公認会計士を目指す学生の経済的支援のための活動を拡充していくことを検討していきたいと思っておりますので、会員の皆様には、是非ともご理解とご協力のほどお願ひいたします。

【法政大学校友会への協力について】

一般社団法人法政大学校友会におきましては、会員の皆様方のご協力ご賛同により公認会計士法友会の終身会員登録者が現在合計83名ということで、2017年度より実施されましたブロック制度において、第5ブロック「土業の会」の最大のパートナー組織として、更にプレゼンスを高めることができました。今年度はこれをさらに拡大して100名を超える規模の終身会員登録を目指して活動していく方針ですので、このための資金も必要となります。何卒よろしくご協力のほどお願ひいたします。

また、来年4月には「年度同期会員」（2014年3月以降の卒業生は卒業後5年間は年同期会）となっている若手会員を各パートナー組織が受入れる（所属変更）こととなりますので、更に終身登録会員の増員が見込まれます。該当する若手会員各位にはぜひ公認会計士法友会への所属変更をよろしくお願ひいたします。

なお、当法友会の和食克雄顧問が引き続き校友会理事（「土業の会」代表ブロック長）に、矢部豊副会長が校友会監事を継続されております。母校の発展のために更に活動を強めていくこととなりますので、会員の皆様にはご支援ご協力のほどよろしくお願ひいたします。

今年も1,200名を超える試験合格者が輩出され、当法友会にも多くの新しい仲間が増えました。2018年1月27日（土）には、外濠校舎薩埵ホールに於いて、当会主催に

よる公認会計士試験合格祝賀会を開催いたします。

ぜひ多数の会員の皆様のご出席されることをお願ひいたします。

将来のある若い皆さんが生き生きとして集い結べる業界・魅力ある土業となるよう、法友会としてもまだまだやるべきことはたくさんあります。

最後に、九州南部に台風22号が接近した10月28日、校友会主催の「全国卒業生の集い宮崎大会」に参加してまいりました。（詳細は、週刊サンデー毎日の11月26日号「シリーズ大学同窓会の研究」法政大編（下）ご参照ください。）

この記事のタイトル「大学と同窓会はともに『進化』する」のとおり、単なる親睦団体から脱し、母校と後輩たちのために行動しようとする法政OBの各位の熱意と我々の責任の重さをしみじみと認識させられる場になりました。

最後の締めは、全員での校歌とエールでした。「フレー！！フレー！！法政 ガンバレ！！ガンバレ！！法政OB」



雑感

齊藤 賢一(平成14年卒)



平成14年卒(平成13年日本国会計士補登録、平成17年日本国公認会計士登録)、有限責任あずさ監査法人の齊藤 賢一と申します。私は平成13年に大手監査法人に入所し、14年間会計監査業務及び各種コンサルティング案件に従事した後、平成26年2月から平成28年12月までの約3年間、アフリカ担当のジャ

パンデスクとして南アフリカに駐在しました。平成29年1月よりあずさ監査法人に転じ、平成29年10月よりKPMG Lower Gulf Limited ドバイ事務所に中東担当のジャパンデスクとして出向しております。本稿では、UAEの概要と業務における雑感を述べたいと思います。

(UAEの概要)

UAEは、7つの首長国で構成されている連邦国家でアブダビとドバイが経済をけん引しており、アブダビは原油輸出、ドバイは金融・観光・物流ハブとして機能しています。人口は9百万人超で、在来アラブ人は全体の10～13%程度、それ以外は外国籍の労働者で構成されています。その人口構成から、いわゆる中東のイメージ(アラビア語、イスラム教など)とは異なり、主に英語が用いられ異文化にも寛容です。外務省公表の調査統計によれば平成29年の在留邦人数は3,846人、日本企業総数は322社となっています。日本企業の拠点の多くは、中東・アフリカ地域の統括拠点および物流ハブです。日本企業の駐在員以外に現地企業で働く方や自営業者なども多いです。摂氏50度に達することがあり湿度も高い夏場の気候を除けば、治安が良く生活インフラも整備されており非常に住みやすい地域です。日本人駐在員の方々には家族連れも多く、休日は定番のゴルフ、サッカー、テニス、ショッピングのほか、ダイビングなどのマリンスポーツを楽しまれる方もいます。

(雑感)

中東各国にあるKPMGの事務所は、現地規制等の知見を有しており、会計監査・税務・各種コンサルティングサービスを提供しています。他方、日本企業には現地の規制が分かり難く、どのように対応していけば良いのか定かでない場合があります。日本企業の担当窓口として日本企業の要望や依頼を聞き、KPMGの

専門家と連携して要望に沿ったサービスを提供するのが私の主な業務です。また、日本企業は通常、信用した相手にしか相談しませんので、日本企業向けセミナー開催、ニュースレター発行、個別訪問なども行っています。

良くも悪くも日本人は日本人とのコミュニケーションを好むので、日本企業の現地マネジメントの方々から、会計、税務のみならず様々かつ率直な質問や相談が私に來ます。現地規制の変化にアンテナを張って情報収集をし、日々勉強しなければいけません。現地マネジメントの視点は非常に勉強になります。また、中東のKPMGの事務所には日本人が私しかいないので、日本企業からの依頼に対して、どのような専門家に相談してどのようなチームを作り、いくらでサービスを提供するかなどをまずは私が検討する必要がありますので、私の裁量の範囲が広くとてもやりがいがあります。

なお、常に忘れてはいけないのが、『日本企業とKPMGの双方が満足を得られるためにはどうすべきか』という視点です。日本企業は日本のサービスレベルを意識しているので、サービスに対する期待値が現地のKPMGの想定する報酬に対して高く、作業時間も多くなりがちです。そのため、日本企業の要望を現地のKPMGの想定する報酬の範囲ですべてを叶えることは非常に困難です。日本企業、KPMGいずれか一方に大きく偏り過ぎず、ちょうど良い折り合いを探す必要があります。日本と海外の発想の違い、ビジネス文化の違いなどが如実に現れるので、これも非常に面白い部分です。

日本企業が真にグローバル化し、我々のような日本人担当窓口はいなくなるのが理想ですが、その日が来るまで日本企業の進出を見守ることができるのは嬉しくやりがいのあることです。

若年層の日本国内志向が取り沙汰される昨今ですが、海外で働くことは、我々日本国会計士にとっても、会計監査などの定型業務を離れて国際感覚を養うことができる非常に有意義な経験です。チャンスがある方は躊躇せず是非海外に出てみてください。

最後に、法友会の皆様におかれましては、当地ドバイにお越しの際は是非お声を掛けいただけますと嬉しく思います。



平成28年度定期総会報告

事務局より

平成29年7月10日に平成28年度定期総会を開催いたしました。今回の総会は、役員の変更期にあたるため、定例の議案の他に役員の変更議案を提出し、いずれも承認されました。

1. 報告事項

・事業報告(主なものを記載)

会員数の推移

最近5年間の推移は以下の通りです。(単位:人)

H25	H26	H27	H28	H29
657	667	683	699	720

公認会計士法友会(以下、「法友会」と略す)参加の意思を表示しない・参加しないと意思を表示した人は累計で約110名になっています。若手会員の活動をより活性化して周知し、参加を促す必要があります。

会費納入状況

3か年の状況は以下の通りです。(単位:千円)

	H26年度	H27年度	H28年度
会費・寄付金総額	2,614	2,340	2,411
終身会員登録会費	—	△1,305	—
差引	2,614	1,035	2,411
支出	2,207	2,163	2,366
収支差	407	△1,128	45

校友会の終身会員登録のために、特別に寄付をお願いした影響を除くと、年平均2,000千円の会費等を納入いただいています。しかし、会員数の増加に伴う会報等の印刷・発送コストの増加等もあり、財政は厳しい状態となっています。会費等については、通常会報の中で納入のお願いをさせていただいておりますが、思うように伸びておりません。

引き続き、より多くの会員の方からの会費の納入と経費削減を合わせて行い、収支差を改善する必要があると考えています。

H28年度実績

終身会員登録者の増加をするための積極的な寄付のお願いができず、寄付金収入および終身会員登録が予算比減となりました。

2. 決議事項

・予算案

(単位:千円)

決算・予算概要	H28年度 予算	H28年度 実績	H29年度 予算
会費・寄付金	3,150	2,411	3,450
校友会より	720	720	720
収入合計	3,870	3,131	4,170
総会・祝賀会 開催費用	1,950	2,098	1,950
終身会員登録	600	—	600
奨学支援金	300	50	550
その他	1,070	908	1,320
支出合計	3,920	3,056	4,170
収支差	▲50	75	0
前期繰越	874	874	949
次期繰越	824	949	949

H29年度予算

概ねH28年度と同様になっておりますが、奨学支援金支給額の増加、校友会の終身会員追加登録を予定した予算となっております。

・役員改選結果

会長	太田 莊一 (昭和52年卒)	
副会長	矢部 豊 (昭和41年卒)	校友会担当
	飯塚 昇 (昭和49年卒)	会員寄附担当
	石川 正敏 (昭和58年卒)	祝賀会・総会担当
	渥美 龍彦 (昭和58年卒)	会報担当
	山田 努 (昭和59年卒)	士業の会担当
	三浦 太 (昭和60年卒)	会員親睦担当
	越智 一成 (平成9年卒)	研修・若手育成担当
幹事	大谷 はるみ (昭和60年卒)	研修担当補佐
	森口 輝来 (平成11年卒)	祝賀会・総会担当補佐
	佐竹 健二 (平成12年卒)	会員親睦担当補佐
	嶋方 拓郎 (平成12年卒)	若手育成担当補佐
	鶴藤 葉子 (平成14年卒)	若手育成担当補佐
	伊藤 章子 (平成14年卒)	寄付講座担当補佐
	川村 敬史 (平成18年卒)	寄付講座担当補佐
監事	酒井 宏暢 (昭和57年卒)	
	小場 貴之 (昭和63年卒)	
事務局長	河西 正之 (平成元年卒)	
(副事務局長)	木村 純一 (平成11年卒)	事務局長補佐

平成28年度定期総会時の会員研修会報告

講師 河西正之(平成元年卒)

「AI(人工知能)は、公認会計士(士業)の脅威となるか」というテーマで研修会を行いました。AIは会計士の仕事を奪い、不要になるのでは?という論調の新聞記事がとて目立っていた時期でしたので、会員の興味も高かったのではないかと思います。また、法政士業の会の公開研修会としたこともあり、弁護士、税理士、不動産鑑

定士の方も多く参加いただきました。研修時には、公認会計士に与える影響だけではなく、弁護士、税理士の各業界ではどのようにとらえられているのかも講師から問いかけをするなど、他の業界の動向も知ることができました。まとめは、テクノロジーに使われるのではなく、使いこなしていくことが大事、という結論に至りました。

平成28年度公認会計士試験合格者の近況

合格者の近況を自ら報告していただくコーナーです。

●江口 俊弘(平成16年卒)



■はじめに

法友会の皆様。いつもお世話になっております。江口俊弘と申します。

私は2004年に経営学部経営学科を卒業後、自動車部品メーカー、医療機器メーカーを経て32歳から公認会計士を目指し、3年間の浪人生活の末、昨年合格しました。現在は有限責任監査法人トーマツで監査業務に従事しております。

■公認会計士を目指した理由

卒業後、10年近く事業会社の製造部門で生産管理、原価管理を担当していた私は、30歳前後の会社員にありがちな「自分の会社生活はこのままで良いのだろうか?」という思いに駆られていました。自分のキャリアの5年、10年先の姿が見えてしまい、仕事に対するモチベーションは下がる一方でした。また、私の父親は当時会社員でありましたが既に定年を迎えており再雇用の身となっております。契約期間も徐々に短くなって行き、手に職を付ける事の重要性を痛感しました。そんな折、内部統制監査の窓口として、公認会計士と接する機会がありました。彼らと関わるうちに、学生時代に唯一興味を持った科目が会計系の授業であった事を思い出し、ここで一念発起して人生を切り拓こうと決意しました。年齢を考慮すると何か大きなことに挑戦する最後のチャンスであるとも感じました。

■浪人生活について

安定した収入を得られるサラリーマン生活を捨てることに、両親からは強く反対されましたが、これを押し切り会社を退職し、無職の生活が始まりました。貯金を切り崩す日々のため、予備校に通って勉強をする一方で節約もしなければならず、暖房の代わりに湯たんぽで寒さを凌いだり、お金が掛からないもやしを使った料理ばかりを作るなど、絵に描いたような浪人生活を送っていました。何より堪えたのが、30過ぎて無職と言う事実でした。職業欄に無職と書く事への抵抗、ことあるごとに感じる肩身の狭さは表現のしようがありません。しかし今思えば、そういった焦りや不安が「何が何でも受かるんだ」という強い信念につながり、合格を勝ち取ることが出来たのだと思います。様々な人の支えもあり、感謝しております。

■監査法人での業務と日々感じていることについて

事業会社での実務経験が最も活かせると考えクライアントはメーカーを希望したこともあり、主にメーカーの監査を担当しています。事業会社での実務経験が活かしていると実感できたのは、内部統制監査における購買部門の業務ヒアリングの中で、自らの経験を元に踏み込んだ質問を投げかけることによって有益な情報を得ることが出来たことです。書類や机上の話だけでなく、クライアントの実情をイメージしながら理解することを心がけており、このようなことの積み重ねによって信頼関係を構築できると考えています。

一方勤務形態については事業会社では味わえなかったこと、新鮮に感じていることが多々あります。監査法人は事業会社と異なりクライアントごとにチームが編成されているため、自分の席も決まっておらず日によって接する人も変わります。毎日同じ席で同じ様な年齢層の人と仕事をするのが当たり前環境であった私にとって、この様な勤務形態は戸惑いもありましたが、慣れてくるとメリットの方が多いように感じます。また、メインで担当しているクライアントが地方にあるため、出張が多く、1度の出張で1週間～2週間となります。事業会社の頃は宿泊での出張は数えるほどしかなかったため、監査法人に入り1週間ホテルで生活をするという機会が増え、生活面でもこれまでと大きく変わりました。

■最後に

卒業後、大学には2007年の1度目の転職時に訪れましたが、学生会館が無くなっており卒業から3年でも結構変わるなあという印象でした。昨年訪れた際には飯田橋から大学までの景色や大学の校舎も大きく変わり、自分の通っていた大学とはまるで別の大学になっており10年の月日の流れを感じました。

出張が多くお酒を飲む機会も増えたため、健康管理には気を使うようになりました。プライベートでは会社を辞めて受験に専念することへの後押しと無職時代を支えてくれた方と2017年9月に入籍しました。妻が3年間嫌な顔せず支えてくれた事は言葉にできないくらいに感謝しております。時間を掛け恩返しをしていきたいと考えております。

「法政士業の会」便り

小場貴之（昭和63年卒）

平成28年11月26日に法政士業の会が発足いたしました。法政士業の会は法政大学出身の専門士業団体（弁護士、公認会計士、税理士、不動産鑑定士、行政書士）が共に活動できる合同の団体組織を設立したもので、所属会員のビジネス上のメリットや大学・卒業生・社会への貢献などを目的としています。

私は法政士業の会の監事ですので、法政士業の会の活動報告をさせていただきます。

昨年11月の定期総会の後、平成29年3月18日に法政大学の坂本光司教授をお招きして設立記念講演および会員団体代表者5名によるパネルディスカッションを行いました。これには、一般の方を含む150名弱の方が参加し、その後の懇親会も70名強の参加者があり、親睦を深めることができました。

また、今年度は法政士業の会の具体的な活動を行うため、役員会内に委員会を設置して各活動を開始しております。事業企画委員会は、法政大学の総務部、キャリアセンター、付属校連携室、法政大学校友会との意見交換を行いました。また、研修委員会は研修構成を、①年次定期会員研修、②年次定期公開研修、③臨時特別研修、④長期継続研修と4つに分け、具体的な研修活動を行っております。厚生委員会は、会員団体の各士業相互の親睦を深めるとともに、ビジネス交流会を企画しております。

最後に広報委員会では、校友会主催のオール法政新年を祝う会への広告掲載、その他一般的な広報活動の他、ホームページを立ち上げました。今後はホームページの充実を図り、適時の広報活動を行っていく予定です。

ホームページアドレス <http://www.hoseishigyo.net>

なお、法政士業の会では、団体会員だけではなく個人会員も募集しております。これは名称に「士」がつく国家資格を持つ法政大学在学学生・卒業生を対象にしており、具体的には司法書士、社会保険労務士、一級建築士を想定しております。

さて、平成29年11月25日に法政士業の会第1回定時総会及び懇親会が行われました。定時総会の場所は法政大学58年館855教室で、30年前の大学生時代を思い出してしまいました。定時総会は会長挨拶から始まり、議長決定、報告事項承認事項の議案と順調に進み、最後に新役員の挨拶

を経て閉会となりました。議案中には、決算報告・予算の他、個人会員の入会承認決議もあり、新たに5名の個人会員（一級建築士、宅地建物取引士等）が入会いたしました。

定時総会に続いて、法政士業の会・記念講演会が行われました。講師は弁護士であり、法政大学教授の高須順一先生で、「民法（債権法）大改正・ここだけの話」といったテーマでお話いただきました。この講演会には法政大学の法学部の学生（高須ゼミのゼミ生中心なのでしょう）も出席したので、855教室は満員状態となり、ものすごい熱気を感じました。そのせいかわかりませんが、1時間15分の講演予定が1時間半以上となりました。

講演そのものも、我々公認会計士にも決して無関係ではない民法改正をテーマにしており、退屈しない興味深いものでした。我が国の民法は法政大学の存在なくしては成立しないそうです。実は明治12年に明治政府の法律顧問であったポアソナード先生が旧民法の起草を開始し、明治23年に公布されたものの、明治25年に旧民法施行延期法案が可決されていわゆる旧民法は幻に終わったとのこと。この旧民法公布から施行延期法成立までの2年間の論争を「民法典論争」と呼ぶそうです。旧民法は、ポアソナード先生が中心となって編纂したので、今でも「ポアソナード民法」と呼称されているそうです。その後、明治26年に法典調査会が発足し、明治31年に明治民法が施行されるわけですが、このあたりのお話が興味深かったです。

講演会が終わり、お楽しみみの懇親会の時間となりました。場所は、富士見ゲートの食堂「つどい」です。今回は着席式で、一つのテーブルに各士業の方がばらけるようにくじ引きで席順を決めました。私の席も、弁護士、不動産鑑定士の方と一緒にかなり盛り上がったのでこの試みは正解だったと思います。

懇親会は、行政書士オレンジ会の吉田会長の名司会で始まり、金子会長の挨拶、来賓の方の挨拶の後は乾杯を経て、各士業の紹介がありました。皆さん個性あふれる自己紹介で楽しかったです。最後は、応援団の演武がありました。さすが法政大学応援団です。痺れました。

法政士業の会では、このような活動を行っております。今後も法友会の方々の参加をお待ちしております。



寄附講座報告

伊藤章子(平成14年卒)

公認会計士法友会では、2017年9月21日から2018年1月18日にかけて、毎週木曜日の2限(11:10~12:40)に、855教室(58年館5階8番教室)にて、経営学部の寄附講座「実践会社実務論」(全15回)を開催しています。

今回は、同講義時間帯に、人気のある講義が重なった関係で、受講生は、60名程度と前回よりは減りましたが、その分、寄附講座の各テーマに関心の高い、やる気のある受講生が多く集まり、毎回、実務経験豊かな法友会会員の講師陣のもと、熱気ある講義が繰り広げられています。

今回、初めての試みとして、古田土さんの講義時に古田土さんが代表を務める、古田土会計が取り上げられた「ワールドビジネスサテライト」のコーナー『カイシャの鑑(カガミ)』を放映、石川さんの講義時にも石川さんが代表を務める、あいわ税理士法人の若手税理士の仕事ぶりを映したYouTubeを放映し、受講生からの好評を得ました。

今回は、出席カードの代わりに、受講生に試験用紙を配布し、講義の最後に各講師が出題された当日のテーマに関する課題に対するレポートを記載してもらうようにしています。真剣に講義を聞いた上で、レポートを記載している受講生が多く、講師陣も受講生の熱意を感じています。

2017年11月15日(水)の夜には、講師と受講生との懇親を深めるため、ポアソナードタワー25階のスタッフクラブにて、懇親会を開催しました。参加した受講生からは、公認会計士の資格や仕事内容がよく理解でき、大変勉強になったとの感想が聞かれました。

2018年度は春学期に同様の寄附講座を開催予定となっております。引き続き、法友会会員の皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。



寄附講座懇親会

2017年11月15日(水)に講師陣と受講生30名ほどが集まり、懇親会を開催しました。太田会長が「15回の講座になっており、先日までで半分が終了したことになります。受講生と講師陣との交流の場を設けようと企画しました。時間の許す限り質問等、いろいろと話をさせていただきたいと思います。」と懇親会の目的を説明し、乾杯、歓談となりました。

参加した講師陣6名から講義内容や受講生に向けたひと言等について話していただき、受講生からは、講義の感想や意気込みを語ってもらいました。

受講生からは、以下の感想等をもらいました。

- ・会社の不正についての内容が興味深かった
- ・毎回講師が変わっていろいろ聞けるので、お得な講義だと思う
- ・古田土さんのインパクトが強かった
- ・管理会計のゼミに入っていて、簿記の勉強を始めて興味のある内容が講義の中にあっただのがきっかけ
- ・一つ一つテーマが明確でよいと思った。
- ・実務の経験から聞けるので、話の内容もおもしろい。

最後は、円陣を組んで、校歌斉唱でお開きとなりました。





簿記チャンピオン大会表彰式懇親会参加報告

川村敬史(平成18年卒)

2017年11月11日、法政大学で高度会計人育成センターが主催する簿記チャンピオン大会が開催され大会後の表彰式・懇親会に参加しました。

この簿記チャンピオン大会は、翌週に行われる日商簿記検定の腕試しを行うと同時に、成績優秀者には公認会計士試験を目指すモチベーションを上げてもらうため、法友会から「奨学支援金」を支給しているものです。大会後の懇親会では各テーブルで公認会計士試験を目指す大会参加者に法友会会員が受験勉強や合格後の流れなどについてアドバイスをを行い太田会長から成績優秀者6名に奨学金受給資格証が贈呈されました。2018年も高度会計人育成センター出身の公認会計士試験合格者がさらに増えていくことを願ってやみません。

ら「奨学支援金」を支給しているものです。大会後の懇親会では各テーブルで公認会計士試験を目指す大会参加者に法友会会員が受験勉強や合格後の流れなどについてアドバイスをを行い太田会長から成績優秀者6名に奨学金受給資格証が贈呈されました。2018年も高度会計人育成センター出身の公認会計士試験合格者がさらに増えていくことを願ってやみません。



ゴルフコンペ等報告

石川正敏(昭和58年卒)

1. 第18回法友会ゴルフコンペのご報告

2017年8月23日(水)茨城ゴルフ倶楽部の東コースにて、法友会コンペを開催いたしました。今回のコンペは、十月会の練習ラウンドを兼ねて行われました。成績は、小生(石川)がグロス85、ネット72で優勝、初参加の川瀬さんが同じくネット72で準優勝しました。



2. 第16回オール法政ゴルフ大会“総長杯”参加報告

2017年9月4日(月)、和食先生、太田会長、飯塚さん、伊藤さんとともに千葉県キングフィールズゴルフクラブにて開催された、オール法政ゴルフ大会“総長杯”に参加しました。ゴルフ場を借り切り、総勢184人での大規模なコンペです。法政校歌の音楽がクラブハウスに流れる法政一色の環境で、ゴルフにも参加された田中優子総長を囲んで、大いに盛り上がったイベントでした。パーティーの最後は、応援団出身のエールの下、全員で肩を組んで校歌を熱唱しました！

非、次回の総長杯には多くのメンバーが参加して、皆で盛り上がりましょう！

3. 第30回十月会コンペのご報告

2017年10月9日(月)、茨城ゴルフ倶楽部にて、大学対抗ゴルフコンペが開催されました。近場での開催ということもあり、今年も14大学から総勢93名参加という盛大なコンペとなりました。我校からは、13名が参加しました。

大学別の勝負は、上位4名のネットスコアで競い合い、事前練習の成果もあってか、和食先輩、佐藤さん、蕨澤さん、酒井さんが上位に食い込み、準優勝を果たしました！一昨年に我が校が優勝し、開催ルール(優勝後の2年間は1位スコアの場合、準優勝に繰り下げ)によって昨年は1位のスコアながら、準優勝となりましたが、ここ数年前述のように素晴らしい戦績を収めています。

コンペ終了後、準優勝及び各賞を持ち寄り、みらい平駅近くの中華料理店にて、打ち上げを開催し、大いに盛り上がりました。

来年の十月会も、茨城ゴルフ倶楽部にて、2018年10月8日(月、祝日)に開催される予定です！皆さん、是非、お気軽にご参加ください！お待ちしております。



是



各種参加報告

不動産鑑定士橙法会

小場貴之(昭和63年卒)

2017年6月30日(金)、不動産鑑定士橙法会第16回定期総会及び懇親会に和食先生と出席してきました。私は「法政士業の会」の監事という立場なので橙法会の方たちも存じております。また、他の士業の会の定期総会はどのようなものかも興味がありました。

定期総会の後、懇親会の前に行政書士オレンジ会の吉田先生の講演がありました。内容は行政書士はどのような仕事をしているかというもので、とても興味深いものでした。その後の懇親会も和気藹々としておりました。

専修大学会計人会

河西正之(平成元年卒)

2017年6月30日(金)に専修大学の神田校舎にて開催され、石川副会長と河西で参加してまいりました。吉田会長の挨拶の後、来賓の公認会計士三田会の池上会長がAIと会計士について、JICPAの手塚常務理事(IT委員会担当)が大学生向けに講義を行い好評であり、その他の大学でも展開したいので、希望があれば

寄せて欲しいとの挨拶がありました。その後、歓談となり、お開きとなりました。



日本大学桜門会計人会

山田 努(昭和59年卒)

2017年7月4日(火)市ヶ谷の日本大学桜門会館4階桜ホールにて日本大学桜門会計人会の総会・懇親会があり、法政大学からは当会の石川副会長と山田、法政会計人会の武田真吾先生の3名が参加しました。日本大学といえばマンモス校のイメージがあり、多数のOB会計士・税理士で賑わう立食パーティを想像していましたが、意外と少人数の落ち着いた着席スタイルの懇親会でした。

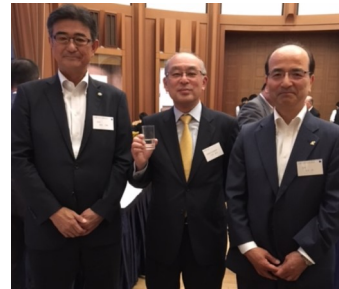
昨年就任した木田正幸会長は監査法人在職時代の仕事仲間であり個人的な思い出話をしたり、桜ホールのテラスから見えるお濠とポアソナード・タワーの夜景が綺麗だったりと楽しいひと時を過ごしました。会計士のOB会と税理士のOB会が別々に組織されている大学が多い中で、単一のOB組織運営についても考えさせられたよい機会でした。

明治大学公認会計士会

太田 荘一(昭和52年卒)

2017年7月5日(水)、明治大学公認会計士会の定期総会懇親会に、酒井監事と出席してきました。写真まんの明治大学公認会計士会の中里猛志副会長は学校法人明治大学の財務担当理事でもあり、また、卒業生の個人公認会計士2名が学校法人明治大学の会計監査も担当しているとのこと。学長の挨拶でもOBの公認会計士の活躍を讃えられていました。最後は、恒例の明治大学マンドリン倶楽部による名曲演奏に出席者全員が酔いしれ、中

締め明治大学校歌斉唱まで生演奏で盛り上げていただきました。



公認会計士白門会

渥美龍彦(昭和58年卒)

2017年7月7日(金)、公認会計士白門会総会後の懇親会が、中央大学駿河台記念館(お茶の水)レストラン・プリオールで開催され、三浦副会長と渥美が出席しました。同会では平成28年度までの黒田克司会長から平成29年度は熊坂博幸会長への交代があり、懇親会には、他大学の公認会計士組織のほか、弁護士、司法

書士、社会保険労務士など会員以外の方も多く、若手会計士の姿も見受けられ、会場をほぼ一杯に歓談が行われました。



経営学部同窓会

太田 荘一(昭和52年卒)

2017年の暑さ厳しい7月8日に、経営学部同窓会総会懇親会に幹事の川村敬史さんと一緒に参加してきました。講演会は、経営学部の平田教授からの「アベノミクスの評価」ということで、懇親会は、学生が使う富士見坂校舎の食堂で、最後に全員肩を組んで校歌斉唱で、暑気払いをしました。岩井昭会長には、いつも大変お世話になっており、神宮球場での六大学野球の応援にも当会のメンバーと一緒に招待いただきました。来春には合同の応援会を企

画していますので、皆さん是非も参加してください。



法政会計人会

河西正之（平成元年卒）

2017年9月15日(金)に法政会計人会の講演会と懇親会に参加してまいりました。法政士業の会共通の研修会として講演会「民法改正について」が弁護士・小林義和さんによって行われました。

その後、懇親会が開催され、新会長の高田住男さんによる挨拶の後、歓談となり、最後は円陣を組んでの校歌斉唱となりました。



法政大学法曹会

飯塚 昇(昭和49年卒)

2017年10月7日(土)、法科大学院の教室で行われた法政大学法曹会の総会と講演会、アルカディア市ヶ谷で行われた法曹会と法科大学院との共催の平成29年度司法試験合格祝会に出席しました。

田中裕子法政大学総長からお祝辞をいただき、また、桑野秀光校友会会長からのお祝い金の贈呈もあり、私ども法友会同様、多数の大学関係者が参加され、また、多くの士業の会メンバーも参加して盛大に行われました。

合格者の方々が、大学関係者や先輩弁護士とはもちろん、他の士業の会の方たちとも積極的に会話をし、交流を深めようとする姿勢に、法律の専門家として成長しようとの意気込みを強く感じました。

なお、祝賀会に先立って行われた講演会では、和食克雄法友会顧問が粉飾全般に関する論点を、東芝問題に当てはめて多様な角度で掘り下げた資料をもとに、「会計入門—東芝問題を題材にして」の講義をされました。



行政書士オレンジ会

河西正之（平成元年卒）

2017年10月18日(水)にアルカディア市ヶ谷にて開催された懇親会に参加してまいりました。専修大学の鳳会と共同開催という珍しい形式をとっています。出席する会員数などの課題があるようです。行政書士オレンジ会は昨年より法政士業の会に加わり、いろいろなところに羽ばたいていこうと考えているそうです。また、つい先日、校友会に参加を申し込み、受付をしていただいたそうで、否決されなければパートナー組織に加入できることから、また、あらたなステージでの活躍をしてきたいとのことでした。

歓談の後、専修大学、法政大学とも校歌斉唱を行い、お開きとなりました。



全国大会会計人会サミット

大谷 はるみ(昭和60年卒)

第21回全国大会会計人会サミットは、2017年11月4日(土)、成蹊大学において開催され、越智一成副会長、森口輝来幹事、大谷はるみの3名で参加しました。サミットには24校、29団体、130名程参加し、テーマは、「公正処理基準を考える」でした。成蹊大学の成

道秀雄特任教授による基調講演「総説「公正処理基準」を考える。」に続き、公正処理基準について4人のパネラー(坂本雅士氏、白土秀成氏、上松公雄氏、東葭新氏)によるパネルディスカッションが、そして懇親会が和やかに行われました。



公認会計士法友会

公認会計士法友会事務局

〒169-0074

東京都新宿区北新宿4-19-15 正和ハイツ301

E-mail: hosei.hoyukai@gmail.com

母校の発展と後進育成への貢献を
目指して活動しています。

12月末現在の会員数 718名

ホームページもご覧下さい。

<http://hoyukai.la.cococan.jp/>

IDはhoyukai

パスワードはhakone102

(平成30年1月20日より)



編集後記

新年が始まりました。この号を作っているのは2017年の年末ですので、箱根駅伝がどうなったか、気になっています。今年もシードがとれたのかどうか。応援に行きたいと思います。

さて、寄附講座も残りあと数回です。学生の反応も好評のようです。来年度は春学期で開催できそうです。講師の皆様、頑張ってください。

市ヶ谷キャンパスはだんだんと姿を変えています。ぜひ、合格祝賀会に

早めに足を運んで、無くなってしまう校舎の見納めをしておきましょう。



物故者について

今年度において、下記の会員の方が永眠されました。ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

故 田沼 次郎(昭和26年卒)

年度会費及び寄付金のご協力のお願い

法友会活動は会員の皆様からの会費及び寄付金で賄われておりますが、合格祝賀会などの行事開催費、通信費などの運営諸経費、他校の会計士団体への参加費、慶弔費などの支出が必要で、会員各位のご理解とご協力なくしては、持続的な活動が出来ません。

最近、会費及び寄付金を納めていただける方が固定化し、また、減少傾向にあります。一方、会員の増加で、定期総会や合格祝賀会のご案内にかかる通信費、会報や住所録の作成費用が増大しています。皆様の、ご理解とご協力を強くお願いする次第です。

今回の会報発送とともに、平成29年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)会費の納入と寄付金のお願いをさせていただきます。

また、平成28年度から「公認会計士試験挑戦者に対する奨学支援金制度」(以下、奨学支援金)がスタートしており、この支援金は会員の皆様からの会費及び寄付金で賄われることとなります。

毎年、寄付金等をお支払いいただく際に、いったいいくら納入すればよいのか分からないなどのご意見・質問が寄せられます。法友会活動は会員の皆様からの会費及び寄付金の納入で支えられていますが、皆様に大きな負担を感じさせるのは本意ではありません。あくまで会員の皆様のご厚意にお願いするものであります。

年度会費の5,000円だけでも結構ですし、年度寄付金・校友会寄付金・奨学支援金・その他寄付金などの寄付金として寄付金5,000円(一口)を加えて合計10,000円を納入いただければ助かります。

もし、ご理解をいただけるのであれば、年度会費の5,000円と寄付金の10,000円(二口)、合計15,000円を納入いただけますと大変助かります。

振込先を記入した郵便振替口座用紙を同封させていただきましたが、銀行振込をされる場合は下記の口座にお願いいたします。

銀行口座 三菱東京UFJ銀行 東中野支店(店番152)

普通預金・口座番号 159256 口座名・公認会計士法友会

<連絡先> 〒169-0074 東京都新宿区北新宿4-19-15 正和ハイツ

公認会計士法友会事務局

080-8886-0375 / hosei.hoyukai@gmail.com

Books!

書籍の出版情報を事務局までお寄せください。会報に掲載いたします。その際に、執筆者からの一言(書籍の宣伝でもOK)も併せてお願いいたします。

以下の執筆情報をいただきましたので、掲載いたします。

・アメーバ経営の進化—理論と実践— 著者:近藤大輔(平成16年卒) 編者:アメーバ経営学術研究会 出版:株式会社中央経済社
執筆者より一言「今後も皆様の役に立つ本を書いていきたいと思っております」

※書籍寄贈中止のお願い

会計大学院(イノベーション・マネジメント研究科アカウントング専攻)の廃止に伴い、書籍を開架しておく場所が無くなってしまいました。新しい場所が見つかるまで、書籍の受入は中止させていただきたく、お願いいたします。この場合でも、出版情報は引き続き掲載したいと思っておりますので、お寄せいただきますよう、お願いいたします。